

総務教育常任委員会資料

(令和4年7月21日)

【項目】

ページ

- 最近のSDGs推進に係る主な動きについて

【新時代・SDGs推進課】・・・2

令和新時代創造本部

最近の SDGs 推進に係る主な動きについて

令和 4 年 7 月 21 日
新時代・SDGs 推進課

本年 5 月の SDGs 未来都市の選定を契機として、より一層の普及啓発や持続可能な地域社会の創り手を育成するなど SDGs の取組を加速させているところであり、直近の SDGs 推進に関する主な取組等について報告します。

記

1 とっとり SDGs ネットワーク会議の開催

鳥取県らしい持続可能な地域社会を実現するための、行政、企業、団体、NPO をはじめ多様な主体による官民連携組織「とっとり SDGs ネットワーク」(以下、ネットワークという)の令和 4 年度第 1 回会議を開催しました。

会議では、SDGs 未来都市等選定の報告、各団体の SDGs 達成に向けた活動報告の他、とっとり SDGs ネットワーク主催事業として開催する普及啓発・実践強化期間「とっとり SDGs シーズン 2022」の企画案について意見交換を行いました。

- (1) 日 時 7 月 4 日 (月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- (2) 場 所 第 3 応接室 ※出席者は原則オンラインで参加
- (3) 出席者 知事、児嶋鳥取県商工会議所連合会会長 (ネットワーク代表)
その他、ネットワーク構成員 14 名
- (4) 次 第 ○SDGs 未来都市選定報告
○ネットワーク構成員活動報告
○令和 4 年度の新たな取組 (とっとりエコライフ構想、子ども伝道師、慶応大学と連携した取組、とっとり SDGs ビジネスアワード等) 報告
○「とっとり SDGs シーズン 2022」(以下「SDGs シーズン」という) 企画案について 他



(参考) とっとり SDGs ネットワーク概要

- | | |
|------|--|
| 設立時期 | 令和 2 年 11 月 14 日 |
| 設立目的 | ・県内で SDGs を実践する個人や企業、団体等の取組を構成員間で共有するとともに情報発信し、SDGs の認知度向上と実践拡大に繋げる。
・構成員が率先して SDGs を意識した取組を行うとともに、連携・協働する。 |
| 構成員 | 18 名 [金融機関、企業、地域・環境等各分野の団体、報道、教育機関等] |

2 とっとり SDGs 子ども伝道師の任命及びロゴマークの決定

7 月 7 日 (木) に県庁 1 階ロビーにおいて、「こども SDGs セブタセレモニー」を開催し、県内における持続可能な地域社会の創り手の育成に向け、学級等で SDGs を学び、身の回りでの実践等に取り組む小中学生を「とっとり SDGs 子ども伝道師」として任命しました。

また、シンボルとなるロゴマークを募集した結果、48 作品の応募があり、上記とっとり SDGs ネットワーク会議において選定された、最優秀作品 1 点、優秀作品 2 点を発表しました。

【任命校概要】

○鳥取市立久松小学校 全校児童 (約 300 名)

とっとり SDGs ネットワークメンバーの中井みずほ氏 (Tottori Mama's 代表、とっとり SDGs 伝道師) を講師に招いて、児童が SDGs とエコライフについて学習しました。

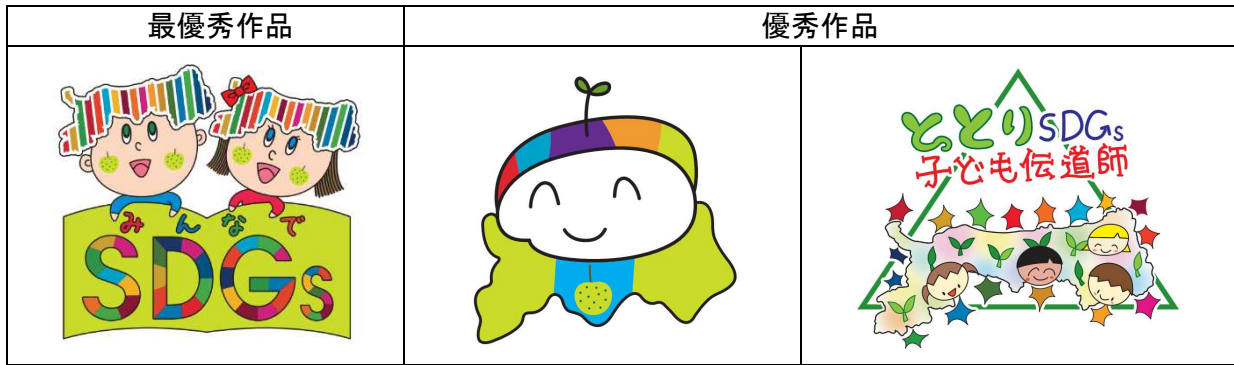
学習のアウトプットの一つとして、児童が各家庭から持ち寄ったペットボトルや因州和紙工場で廃棄予定の和紙壁紙をアップサイクルし、金属ストローと未来へのメッセージ短冊を付けて「ペットボトル風鈴」を制作しました。

○湯梨浜町立湯梨浜中学校 第 3 学年 (約 150 名)

総合的な学習の時間にワークシートやカードゲームを活用し、SDGs の理念を学習したうえで、各生徒が解決を目指したいゴールを選択して課題研究を行いました。また SDGs が達成された未来に向け取組が必要な課題からキャッチコピーを作成しました。

あわせて各生徒がメッセージポスターを制作し、全校や地域への普及にも取り組みました。

【ロゴマーク受賞作品】



【こども SDGs セタセレモニー 任命書の交付】



3 「地域版 SDGs 調査 2022」 結果の公表

㈱ブランド総合研究所が、「第4回地域版 SDGs 調査 2022」の結果を7月20日に公表し、本県が「住民による SDGs の取組評価が高い都道府県ランキング」において SDGs 評価指数（※）で 54.4 点を獲得し、3年連続で第1位となりました。

※設問「(あなたの居住する)都道府県は SDGs 達成のために積極的に取り組んでいると思いますか」に対して、「よく取り組んでいる」、「少し取り組んでいる」、「どちらともいえない」、「あまり取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」の5段階で評価し、それぞれ 100 点、75 点、50 点、25 点、0 点で加重平均した結果を SDGs 評価指数(点)とした。

<住民評価の概要>

- ・「よく取り組んでいる」が 9.3%、「少し取り組んでいる」が 28.0%と、およそ4割の住民が本県の取組を評価。(全国平均は 28.8%)
- ・「よく取り組んでいる」の回答は前年の 4.8%からおよそ 2 倍に増加。

<「SDGs の取組評価が高い都道府県ランキング」(抜粋)>

順位	2022年		2021年		2020年	
1	鳥取県	54.4 点	鳥取県	51.9 点	鳥取県	58.3 点
2	福島県	52.9 点	石川県	50.5 点	熊本県	55.4 点
3	宮崎県	52.7 点	千葉県	48.1 点	岩手県	55.0 点
4	福井県	52.5 点	広島県	47.9 点	長野県	54.9 点
5	山形県	52.4 点	三重県・福島県	47.8 点	高知県	54.8 点
平均	—	49.1 点	—	45.0 点	—	50.0 点

※実施年によって評価項目数等が異なるため、評価点数は単純比較できません。

地域版 SDGs 調査 2022

調査方法 インターネット調査
 調査対象 47 都道府県の登録調査モニター (15 歳以上) から居住する都道府県別に抽出
 回収数 計 23,520 人 (各都道府県から約 500 人ずつを回収)
 調査時期 2022 年 5 月 20 日～5 月 26 日